

北アルプス 赤木沢 沢登り報告書

【日 時】 2017年8月3日～6日

【参加者】 CL 柘植 SL 砂田 石井 藺田 古関 杉山（記録）

【記 録】 3日 千葉 17:00＝立山 IC00:05＝亀谷ゲート 00:30（仮眠）

4日 亀谷ゲート 6:00＝折立登山口 6:50→太郎平 11:40→14:30 薬師沢小屋

5日 薬師沢小屋 5:40→赤木沢出合 7:40→（赤木沢遡行）中俣乗越 12:00→赤木岳 12:50
→北ノ俣岳 13:40→太郎平 15:30→18:30 折立登山口（先行隊 18:30、後行隊 19:00）

6日 折立 7:00＝有峰林道＝東谷ゲート＝平湯 9:00＝松本＝千葉 16:30

【天 候】 晴れ（夜間少々雨）

長年憧れていた赤木沢に行け、思い描いていたとおりの滑とエメラルド色の淵を遡行出来た。15年前友人に赤木沢の写真を見せられ是非いきたいと思い、県連の沢講習会やちば山の初心者講習を受け、行ける機会を待っていた。昨年鶴田さんが計画していただきましたが流れてしまった。何か月か前に柘植さんが声かけてくださり、期待に胸を躍らせて今日を迎えた。8月3日夕方千葉を出発途中雨にあったが上がり、亀谷ゲートに1番について、ゲート横でテント泊。

4日亀谷ゲートが6時に開き、トップで出発して折立で鈴鹿から参加の古関さんと合流。太郎平への登りで中学生と小学生のテント装備の姉妹に会う。北鎌の練習の為薬師峠キャンプ場に行くと言きびっくりした。太郎平小屋につき古関さんのお土産赤福を皆でいただく。樹林帯や湿原を快調に下り薬師沢小屋にようやく着いた。砂田さんが高山病のようで小屋の受付で薬もらい少し良くなる。夕食5時で明日に備え完食。4組の布団6人で1部屋で、他の方達（1組の布団で2人）より楽に眠れた。



森林限界を超えると折立湖が見えてくる



太郎平小屋まで休憩



薬師沢小屋への道



薬師沢小屋での夕食

5日5時朝食後しっかり沢装備を整えて、吊橋手前の梯子を降り水量の多い奥の廊下を赤木沢出逢いを目指して遡行開始。魚留めの滝は右岸の岩場を高まきふみ跡を辿り河原に降りる。その少し先の広い滝が赤木沢出逢いで20m滝は左岸を登り、ウマ沢と出会う。快晴で滑が輝き本当に美しい。階段状態の滝や斜滝は快調に中を進めた。4段の滝は中の2段は草着きを登り、河原に戻ると前方に大滝の岩壁が見え凄い迫力。

先行していた5人パーティーが、ロープ出して左岸の巻きに取り付いて時間がかかりそうなので、リーダーが少し戻ったところのルンゼを見つけ登る。大滝の一段目の上にでてロープ張って二段目上にトラバース。小滝を幾つか気持ち良く越え赤木沢と別れ中俣乗越の方に進む。段々流れが枯れてきて雪渓が見えトラバースしてお花畑の中をのぼると従走路にでた。装備を外して太郎小屋目指す。18時までに折立につければ温泉だが、私の下りの遅さだとテントだと思い申し訳なく思った。太郎山のお花畑のなかに雷鳥親子がいた。



薬師沢吊橋から見下ろす黒部川本流



へつりながら遡行する



巻き道を探って登る



深山の雰囲気になってきた



明るく開けてくると赤木沢出合も近い



陽光まばゆい赤木沢入口の淵をへつる



早速2段10mが登場



快適に登れる



その上の10mナメ滝



ここも快適に登れる



4 段の滝（人は先行パーティー）



1 段目を登る



トロの向こうに 2 段 13m 滝



ここも快適に登る



4 段 20m ナメ滝



さらに上にもナメ滝が続く（本当に切れ目がない）



大滝で先行パーティーの通過を待つ



大滝上は源流の風情



北ノ俣岳を越えたところで神岡新道を登ってきた鈴鹿の五目山岳会の古関さんの仲間と出会う。太郎平小屋に着き、ここから折立まで4時間の下りは必死だった。藺田さんのテント張ってあるよとの声が聞こえ、やっとついた！とうれしかった。いれ違いに赤木沢に入る西岡さんグループがいた。ビールとマッシュポテト&焼きそばの差し入れに、カップラーメンの私達は大歓声。私は夢が実現したのと12時間の長い行動が終わりほっとした。6日は西岡さんパーティーと記念写真を取り、テントを撤収して、神岡から平湯に向かう。アルプスの湯平湯でさっぱりして松本の手前のレストラン十字路で昼食をとり、新安房トンネルを通り抜けて中央道にて帰った。渋滞が少しあったが16時半に津田沼に着いた。赤木沢はパール色の岩床の流れが太陽の光に反射して耀き、まるで宝石箱の様な沢で本当に素晴らしかった。願いを叶えてくださったリーダーと参加の方たちのサポートに深くお礼申し上げたい気持ちだ。



折立キャンプ場でこれから出発する西岡さんパーティーと記念写真

記録：杉山喜代枝